

ゴルフ普及の最終兵器。

い い な あ、
コレ 44

◎写真=石塚定人
photograph by Sadato Ishizuka

耳

かきのお化けみたいな、この「スナッグ」を初めて目にしたのは、昨夏のジュニアレックスン会。ゴルフ初めての少年少女が、小ぶりのテニスボールもどきを的に当てて騒いでいた。「ま、子供相手のカラフルなおもちゃ、だな」と一瞥。けれど、2月恒例の用品ショーで出展されているのに出くわし、評価は180度変わってしまったのである。

このボール、ゴルフボールと同じ重さにできている。打ってみると……これがやめられない、止まらない、なのだ。マジで、練習にもなると思う。それにやはり、的が心をくすぐるんだな、きつと。

アメリカのツアープロの中にも愛好者がいて、故ペイン・スチュワートもそのひとりだったらしい。最初は子供に「ゴルフに触れさせる」目的だったそうだが、ある日子供にスクラッチで負けてしまい、



ボールはティアップして打つ。ごていねいに矢印まである。2800円。クラブ5000円、フラッグ5000円、的1万2000円、ボール6個で1800円。お父さんかアイスホッケーのキーパーみたいになる防具付きの的もある

熱い戦いが始まったという。某大物プロのコース設計事務所でも、スタッフが昼ごはんを賭けて戦いを繰り広げるのが日常化していると聞く。考案した人物からして、10年前は米ツアープレーヤーだった。コイツはアメリカ出身。向こうの小学校、中学校では、体育の授業で盛んに行われているとか。日本でもすでに何校か、やっている。

要するに、ゴルフ完全普及の最終兵器となりうるのだ。するとどうなるか。ガラガラゴルフ場に若い衆が押し寄せ、我々旧人類ゴルフアは、しばらくの間不自由になるかもしれない。しかし瀕死のゴルフ場が生き返り、今の安いレートが苦しまぎれの安売りじゃなく、当たり前になる。社団法人コースも、皆で占拠できる。クラブだって絶対安くなる。あまりに誰でもやるようになって、ついには憎きゴルフ場利用税まで廃止になるかも。

ちなみに、このスナッグ、家の中でやるんじゃない。それも可能だけど、本当は広場で楽しく遊ぶ。飛距離はマックス50ヤード。ピンフラッグまで40ヤード以内に設定すればパー3として、50ヤードより先に置いたときはパー4として、ちゃんとゴルフになる。マジックテープ部分にボールをひっつけければ、ホールアウトって寸法だ。

問題は、場所ですね、日本の場合。公園の「球技禁止」っていうあの看板、何とかしていただけないものだろうか。

